

2018年 平和首長会議 青少年「平和と交流」支援事業に参加して

福田 むつ美（東京都三鷹市）

HIROSHIMA&PEACE と平和首長会議の一連のプログラムに参加して感じたことは、『知る事・理解する事』の大切さだ。私はこのプログラムを通して、平和について知らないことがたくさんあるということを知った。そして、それらの真実を理解し、世界中の人々に伝えることが平和につながると思った。

そこで、私は『知る事・理解する事』に焦点を当てた企画を提案する。

まず、自らの活動計画については、報告会を実施する。これはもともと事後プログラムとして組み込まれているものであるが、私は加盟市町村だけではなく、所属する学校や大学でも開くのが望ましいと思う。なぜならば、広島県外に住んでいると、8月6日の出来事を詳しく知らない人が多いからである。私自身も今回初めて広島に来たことで詳しい真実を知ることができた。

具体的な内容としては、私たちがプログラムに参加して学んだことや実際に平和記念式典へ参加したこと、被爆者の方たちの話を聞いたことから、私自身が何を思い、感じたのかを伝えるというものだ。これらを報告することで、HIROSHIMA&PEACEに参加し、経験したことを一人でも多くの方に伝えていきたいと思っている。

次に、核兵器廃絶に向けた平和首長会議の活動として、小学校・中学校などで講義を行うことを企画する。

前述のように、私たち広島県外に住んでいる者は、広島県民よりも原爆に対する知識が乏しい。そこで、小学校・中学校で8月6日に起こった出来事を授業の一環として広めるということを提案する。

例えば、被爆者の平均年齢が上がっているため、第三世代の人たちが被爆の体験を語り継いでいる。その人たちを小学校・中学校に招いて講義を行っていただくというものだ。さらに、学校に招くだけではなく、市のホール等に子どもや市民を集め、講演を行っていただくことも合わせて提案したい。

私がそれらの講演で絶対に必要な要素として考えるのが、真実を伝えるということだ。私は HIROSHIMA&PEACE の一連の講義を通して、日本人として知らなければいけないであろう事実を今まで学んでこなかったことを知った。例えば、韓国人被爆者の存在だ。私を含めた日本人受講者は、誰一人この事実を学校の授業で習ってこなかった。もちろん授業以外の場でもだ。しかし、73年前に彼らは実際に広島で被爆し、今に至るまで日本人被爆者と同じように苦しみを味わってきたのだ。これらは紛れもない真実であり、私たちは絶対に学ばなければならないことだと感じた。

私は今回のプログラムを通して、『知る事・理解する事』の大切さを少しでも多くの方に知ってほしいと思った。また、『知る事・理解する事』ということは、国境を越えて、お互いの国の文化・言葉・認識を知り、理解し合うという事でもあると思った。

現在、世界を見渡してみると、お互いを理解し合えないという理由でたびたび争いが起っている。平和な世界を作るためには、まず自国で起こった戦争や歴史の真実を知ることが必要だ。そのうえで、外国の方と文化や歴史を共有し、お互いを理解する事で平和な世界が生まれるのだということを今回のプログラムを通じて強く感じた。